

◆ソニー：4 欧州で権威のある「EISA アワード」の7部門で各賞を受賞

ソニーの7つの商品が、欧州で権威のある「EISA アワード 2018-2019」の7部門において各賞を受賞した。受賞商品(および部門)は、以下の通り。



- ・フルサイズミラーレス一眼カメラ『α7 III』(CAMERA OF THE YEAR)
- ・フルサイズミラーレス一眼カメラ『α7R III』(PROFESSIONAL MIRRORLESS CAMERA)
- ・フルサイズ対応αTM E マウント用交換レンズ『FE 16-35mm F2.8 GM』(COMPACT SYSTEM CAMERA LENS)
- ・フルサイズ対応α E マウント用交換レンズ『FE 100-400mm F4.5-5.6 GM OSS』(MIRRORLESS TELEZOOM LENS)
- ・デジタルスチルカメラ サイバーショット®『RX10 IV』(SUPERZOOM CAMERA)
- ・4K Ultra HD ブルーレイ/DVD プレーヤー『UBP-X700』(BEST BUY UHD BLU-RAY PLAYER)
- ・4K HDR ホームシアタープロジェクター『VPL-VW760ES』(PREMIUM PROJECTOR)



なお、昨年新たに設置された最も優れているカメラに授与される賞は、「EISA CAMERA」から「EISA CAMERA OF THE YEAR」に名称を変え、『α7 III』が受賞した。これは、昨年の『α9』に続く2年連続の受賞となる。

◆ソニー：NTT ドコモのショールームに「Crystal LED ディスプレイシステム」を納入

ソニービジネスソリューション株式会社は株式会社NTT ドコモのショールームに、独自開発の極めて微細なLED 技術で高画質と新たな領域の映像体験を提供する、スケーラブルなディスプレイシステム



「Crystal LED ディスプレイシステム」を納入した。今回、NTT ドコモが本ショールームをリニューアルするにあたり、「Crystal LED ディスプレイシステム」の圧倒的な高画質と没入感が評価された。加えて、ハイダイナミックレンジ (HDR)対応や最大120fps のフレームレートによる滑らかな映像表現、より高精細でリアルな映像コンテンツにも対応できる発展性などを評価し、このたびの採用決定に至った。

「Crystal LED ディスプレイシステム」は、ディスプレイユニット『ZRD-1』をカーブ状に216 ユニット設置した世界初のシステムとなる。各ディスプレイユニットに角度をつけて設置することで、108 度に湾曲した横14.5m ×縦2.7m のディスプレイが視聴者の視野を覆い、あたかもその場にいるかのような臨場感ある映像体験が可能。本ディスプレイにて、2020 年の実用化を前に注目を集めている次世代

移動通信システム5G 伝送による、低遅延で高精細な映像を体験できることを希望している。

◆ソニー：強力なブレ補正機能を搭載した業務用ウェアラブルカメラ発売

映像技術の進化に伴い、例えば警備・救急・消防などの領域では、現場と本部間におけるリアルタイムでの映像共有や、現場でのメンテナンス作業状況の動画記録など、動画情報の活用事例が増えている。ソニーは、そうした動画情報の活用ニーズに応えるため、フルHD (1920 × 1080) 高解像度の業務用ウェアラブルカメラを開発した。



一般的に、ウェアラブルカメラを使って現場と本部間で映像情報を共有する場合、装着者の歩行・走行時の振動による影響を補正し、安定した高画質の映像を撮影することが重要。本機は、ソニーが民生用カメラ商品で培った手ブレ補正技術をベースに開発された強力な電子式ブレ補正機能を搭載、揺れの少ないクリアな映像撮影が可能。補正する揺れの振動周波数や補正領域の範囲を、業務用途で使われる場合の動きに合わせて最適化することで、歩行・走行時における上下左右ならびに回転方向のブレを大幅に軽減する。

また、「TECU-001」は受光面と配線層の配置を逆転させることで従来型のCMOS センサーに比べ高感度を実現した裏面照射型のExmor R (エクスマアール) CMOS イメージセンサーを採用した。最低被写体照度2.0ルクスという高感度で、夜間や暗所でも鮮明な映像が撮影できる。ソニーは、本機を警備・救急・消防と言った領域での活用や、企業におけるメンテナンス、作業時の映像共有・映像記録などの用途に提案していく。

●主な特長

1. 強力なブレ補正機能を搭載し、安定した高画質の映像を実現
電子式の強力なブレ補正機能を搭載。約1,110万の有効画素の余裕部分を補正領域として活用することで、上下左右と回転方向における映像のブレを吸収、歩行時や走行時の振動の影響が少なく見やすい映像の撮影が可能。民生用カメラ商品の手ブレ補正技術をベースに、業務用途での動作に合わせて、補正する揺れの振動周波数や補正領域の範囲などを最適化している。
2. 頭部および胸部装着に適した薄型・分離式のカメラヘッド
カメラヘッド部は薄型デザインの小型・分離式を採用しており、頭部や胸部への装着が可能。視線と連動した手元の撮影が要求される場合は頭部、広角・広域での画像が必要とされる場合は肩部に比べて安定した映像を得ることが可能な胸部に装着するなど、用途に応じて装着位置を選択できる。胸部装着の場合には付属の専用クリップを使用することで簡単に付け外しが行える。
3. 暗所での視認性を向上
1/2.3型 Exmor R CMOS イメージセンサーを搭載し、2.0ルクスというウェアラブルカメラとして最高レベルの高感度を実現。また、セキュリティーカメラ商品で培った暗所撮影技術を基に、最適な画質チューニングを施すことで、さらに暗所での視認性を高めている。

4. USB インターフェースを介した映像取得、外部制御が可能

専用SDK (Software Development Kit) を利用しソフトウェア開発を行うことで、USB インターフェース経由での映像取得および機器の外部制御が可能。例えば、専用SDK を利用してスマートフォンのアプリケーションソフトウェアを開発することで、スマートフォンを経由して遠隔地と映像を共有することも可能。

5. その他の主な特長

・SD メモリーカードに映像を記録

本体内に挿入したSD メモリーカードにフルHD、30fps の映像を記録できる。例えば、64GB メモリー使用時には、1920 × 1080 ピクセル、30fps で約8 時間の映像記録が可能。

・USB 外部電源に対応

USB 電源入力を備え、内蔵バッテリーに加えモバイルバッテリーを利用することで長時間の連続駆動が可能。

◆ソニー：電子お薬手帳サービス harmo (ハルモ) 全国 47 都道府県に利用実績が拡大

ソニーの電子お薬手帳サービスharmo (ハルモ)は、harmo 加盟薬局がない地域の方でもスマホアプリだけで薬の記録と閲覧ができる「スマホ向けライト会員サービス」を2017年2月に開始した。

そして2018年8月には、この「ライト会員」が47都道府県まで利用実績が拡がり、全国の人々に利用されるようになった。この普及状況を踏まえ、ソニーはこれまでクラウドサーバーに蓄積してきた薬剤情報を活用し、harmo 会員によるお薬手帳用QRコード※(全国の薬局で薬と共に提供される薬剤情報提供書等に印刷されるQRコード)の利用実績がある約6,500軒の薬局情報を新たに公開した。これらの薬局では、スマホアプリから「ライト会員」のサービスを利用することができる。

◆パナソニック：デジタルカメラ LUMIX DC-FT7 発売

パナソニック株式会社は、アクティブな撮影を楽しめるタフ性能のコンパクトデジタルカメラ LUMIX DC-



FT7 を10月18日に発売する。本製品は、マリンスポーツやウィンタースポーツなどアウトドアシーンで活躍する防水31 m、防塵、耐衝撃2 m、耐荷重100 kgf、耐低温-10℃に対応している。20Mの高感度MOSセンサーを新たに採用し、高画質撮影が可能。更に、約104万ドットの高精細液晶モニターに加え、明るい屋外や海辺・雪山のような強い反射光下など、液晶モニターが見えにくい環境でも、安定したフレーミングができる約117万ドット相当の高解像度ファインダーを搭載することにより、シーンにあわせた撮影のしやすさが向上した。また、最大で29分59秒までの連続撮影が可能な「4K 動画」に加え、秒間30コマ連写の「4K フォト」を搭載し、スポーツシーンなどの決定的瞬間の撮影を楽しむことができる。

<特長>

1. オールシーズンでアクティブな撮影を楽しめるタフ性能

・防水31 m、防塵、耐衝撃2 m、耐荷重100 kgf、耐低温-10℃を実現

2. アウトドアシーンで高画質撮影を楽しむ

・20M 高感度MOS センサーを搭載し、高画質撮影を実現

・明るい屋外や海辺・雪山など強い反射光下でも撮影しやすい約117万ドット相当の高解像度ファインダー搭載

3. 高画質な「4K 動画」撮影、秒間30コマ連写で決定的瞬間をとらえる「4K フォト」搭載

・最大29分59秒の4K/30p 動画撮影

撮影後に好きなフォーカスポイントを選択できる「フォーカスセレクト」モード

◆パナソニック：デジタルカメラ LUMIX DC-LX100M 発売

パナソニック株式会社は、4/3型高感度MOSセンサー搭載と操作性の向上により、こだわりの高画質撮影が可能なコンパクトデジタルカメラ LUMIX DC-LX100M2 を10月18日より発売する。



(ブラック)

本製品は、従来機DMC-LX100で好評のLEICA DC VARIO-SUMMILUX 24-75mm/F1.7-2.8レンズを搭載し、当社製ミラーレス一眼カメラで採用しているローパスフィルターレスの4/3型高感度MOSセンサーを新たに搭載することで、更なる高画質を実現した。また、アナログ感覚で操作ができるリング・ダイヤルに加え、約124万ドットのタッチパネル液晶モニターを新たに採用することにより、タッチAF、タッチパッドAFなどのダイレクトな操作性を実現した。更に、秒間30コマで決定的瞬間をとらえる「4K フォト」やダイナミックなモノクロ表現を実現した「L. モノクロームD」、フィルムライクな質感を表現できる「粒状」を新たに搭載することで、より幅広い表現力を実現した。4K フォトでは、撮影後に好きなフォーカスポイントの写真を選べる「フォーカスセレクト&フォーカス合成」、決定的瞬間の写真選択の手間を軽減できる「オートマーキング」、一連の動きを1枚の写真に合成する「軌跡合成」を搭載し、新たな写真表現を楽しめる。

<特長>

1. 明るいライカ DC レンズと4/3型高感度MOSセンサーを搭載

・LEICA DC VARIO-SUMMILUX 24-75mm/F1.7-2.8 レンズ

・マルチアスペクト 有効1,700万画素 (総画素数2,177万画素)

2. こだわり撮影を支えるダイレクトな操作性

・3.0型約124万ドットタッチパネル液晶モニター搭載

・こだわり撮影機能を設定できるカスタマイズ性の向上

3. 高画質な「4K 動画」撮影、秒間30コマ連写で決定的瞬間をとらえる「4K フォト」搭載

・4K/30p 動画撮影

・撮影後に好きなフォーカスポイントを選択できる「フォーカスセレクト」モード

◆パナソニック：ホームネットワークシステム「スマ@ホーム システム」モニター付きドアカメラ VS-HC400 を発売

パナソニック株式会社は、インターネット環境やスマートフォンが

なくても使用できるモニター付きドアカメラVS-HC400を10月18日より発売する。

本製品は、設置や会話に関する要望に応え、スマ@ホームシステムの新たなラインナップとして展開する。ワイヤレスドアカメラとモニター親機が予めペアリング済みなので、ワイヤレスドアカメラとモニター親機の設定が不要ですぐに使うことができる。来訪者が来た時や外の様子が気になる時など、部屋に居ながらモニター親機で来訪者と会話をしたり、ドアの外の様子を見ることができる。また、玄関の呼出音に連動して玄関の映像をモニター親機に自動的に表示できるため、家事や作業をしながら来訪者の顔を確認が可能。

さらに本製品は当社テレビドアホン「外でもドアホン」で好評の、外出先でもお手持ちのスマートフォンで来訪者の対応ができる機能を搭載した。本機能はこれまで主に戸建住宅向けの「外でもドアホン」でしか利用できなかったが、「外でもドアホン」を設置することができなかったマンションやアパートなどの集合住宅にも設置して利用することが可能になった。外出中でもスマートフォンで急な来客や宅配便に映像を見ながら対応ができる。

<主な特長>

1. 配線工事やワイヤレスドアカメラとモニター親機の設定が不要で玄関ドアに簡単取付
2. 来訪者を自動表示できる「チャイムリンク機能」
3. ネット接続により、外出先でもスマートフォンで来訪者の対応が可能

◆パナソニック：テレビドアホン「外でもドアホン」VL-SWD505シリーズを発売

カメラ付きモニター親機でビデオ通話ができるワイヤレスモニター付テレビドアホンVL-SWD505シリーズを10月18日より発売する。近年、携帯電話やスマートフォンの普及によりコミュニケーションの手段が増え、便利になった一方で、家族間のコミュニケーションの機会が少なくなってきた。本製品はモニター親機をインターネットに接続することで、家族とつながるコミュニケーションのツールとして利用できる。本製品はモニター親機にカメラを搭載したので、モニター親機とスマートフォンでビデオ通話ができる。例えば、携帯電話を持たせていない子供でも留守番中にモニター親機で通話相手を選択するだけでお父さんやお母さんのスマートフォンを呼び出し、お互いの顔を見ながら会話することができる。また、モニター親機同士で双方向ビデオ通話もできるので離れて暮らす両親の様子が心配な家族や、子供の成長を見せられる機会が少ない家族でも、近くに暮らしているかのような感覚で顔を見ながら会話することができる。また、外出先でもスマートフォンで映像を見ながら来訪者の対応をすることもできる。さらに別売のみまもりリモコンをモニター親機に登録すれば、モニター親機の電波の範囲内にみまもりリモコンがあるかどうかを判別し、モニター親機から自動でスマートフォンに通知するので、子供の帰宅や外出を確認することができる。

<主な特長>

1. 業界初カメラ付きモニター親機でビデオ通話ができる
 - ・モニター親機、スマートフォン間でビデオ通話ができる
 - ・モニター親機間でビデオ通話ができる
 - ・スマートフォンからモニ

- ター親機にビデオメッセージを残すことができる
2. 外出先でもスマートフォンで映像を見ながら来訪者の対応ができる
3. みまもりリモコン（別売）で家族の見守りができる

◆キヤノン：欧州で権威のある「EISA アワード」を30年連続で受賞

キヤノンのデジタルカメラ2機種と交換レンズ1機種、アクセサリ1機種の合計4機種が、欧州で権威のある写真・映像関連の賞「EISA アワード2018-2019」の各賞を受賞した。これにより、キヤノンは30年連続で「EISA アワード」を受賞したことになる。



EOS 6D Mark II

■「EISA アワード2018-2019」受賞製品(4件)

- ・EOS 6D Mark II
- ・EOS M50 (国内名称:EOS Kiss M)
- ・EF85mm f/1.4L IS USM (国内名称:EF85mm F1.4L IS USM)
- ・Speedlite 470EX-AI (国内名称:スピードライト 470EX-AI)

「EISA(European Imaging and Sound Association)」は、27カ国・地域のカメラ、ビデオ、オーディオなどの専門誌約53誌が加盟している欧州を代表する権威ある団体。「EISA アワード」は、同団体に加盟する各誌の編集者やテクニカルエディターにより決定される賞で、過去1年間に少なくとも欧州10カ国・地域で発売された写真・映像・音響関連製品の中から優れた製品に贈られる。1982年にスタートして以来、今年で37回目を迎えた。

なお、今回の受賞により、キヤノンの受賞は1989年より30年連続となり、幅広い製品分野において累計33回(年)、合計76種類の製品・技術が受賞したことになる。

◆キヤノン：超高輝度10,000lm以上の市場に参入し映像表現を拡大40,000lmの“LX-4K3500Z”などプロジェクター3機種を発売

キヤノンは昨今のスポーツ観戦や大規模施設における高輝度・大画面プロジェクター活用拡大に伴い、超高輝度10,000lm以上の市場に参入する。「パワープロジェクターシリーズ」として、40,000lm(センター)の超高輝度4Kプロジェクター“LX-4K3500Z”など3機種を8月7日より受注開始する。



■超高輝度かつ広色域なネイティブ4Kを実現(LX-4K3500Z/LX-4K2600Z)

ネイティブ4K解像度(4096×2160画素)に対応する1.38型DLP®チップを3枚使った超高輝度レーザープロジェクター。3チップDLP方式により、色割れ現象が発生しない高画質なネイティブ4K映像をドットバイドットで忠実に再現し、その場にいるかのような臨場感のある映像を最大1,000型の大画面に投写可能。さらに青色レーザー光源2系統と赤色レーザー光源1系統、緑色蛍光体による3原色光源の採用により40,000lm/30,000lmの超高輝度とデジタルシネ

マを配給する際の世界統一規格「DCI-P3」に対応する広色域を両立。

■高い信頼性を確保する密閉防じん構造

光源ユニットと光学ユニットを密閉し、水冷と空冷を組み合わせた空気の循環冷却システムを搭載している。さらに、レンズユニットと本体との間を凹凸構造に設計することでレンズユニットからの埃の侵入も防ぐ。これらの密閉防じん構造により、ちりや埃が堆積しやすい環境下における高い信頼性と耐久性を確保している。

製品名	希望小売価格(税別)
LX-4K3500Z	2,500万円
LX-4K2600Z	2,300万円
LX-HD1200Z	600万円

◆富士フィルム：4K対応 放送用ポータブルレンズ『FUJINON UA46 × 9.5BERD』発売

富士フィルム株式会社は、4K対応の放送用ポータブルレンズとして世界最高146倍ズームを実現した「FUJINON UA46x9.5BERD」(以下「UA46 × 9.5」)を2019年1月より発売する。



「UA46x9.5」は、世界最広角となる9.5mmから望遠437mmまでの焦点距離をカバーし、幅広いシーンで臨場感溢れる映像の撮影を可能とする放送用ポータブルズームレンズ。最先端の光学設計技術により、色収差を極限まで抑制している。また、光の透過率を向上させて鮮やかな色再現と高いコントラストを実現。ハイダイナミックレンジ(HDR)を活かした豊かな階調を再現できる。さらに、新開発の高性能防振機構とドライブユニットの搭載により、安心・快適な撮影環境を提供するなど、スポーツ中継をはじめ、野生動物などを撮影するドキュメンタリー番組や報道取材などで4K映像制作を強力にサポート。なお、HD対応の放送用カメラと組み合わせて使用することも可能で、制作現場の多様なニーズに応える。

2. 主な特長

(1) 4K対応の放送用ポータブルレンズとして世界最高46倍ズームを実現

・複数のレンズ群を動かしズームを行う「多群ズーム方式」と、精密加工を施した大口径非球面レンズを採用することで、4K対応の放送用ポータブルレンズとして世界最高46倍ズームを実現。高倍率ズームレンズで生じやすいズーム時のピントボケを徹底的に抑制し、ズーム全域でクリアな映像撮影が可能。

・超高屈折率レンズにより、広角側の焦点距離での撮影で生じやすいディストーションを極限まで抑制。世界最広角※2となる9.5mmから望遠437mmまでの焦点距離をカバーするため、背景を取り入れた撮影から被写体にクローズアップした撮影まで幅広いシーンに対応することができる。

・スポーツ中継をはじめ、野生動物などを撮影するドキュメンタリー番組や報道取材などで、臨場感溢れる4K映像を実現する。

(2) 最先端の光学設計技術により、豊かな階調を再現

・EDレンズと蛍石レンズを採用することで、軸上色収差や倍率色収差を効果的に抑制する。さらに、独自の多層コーティング処理「HT-EBC(High Transmittance Electron Beam Coating)」により、光の

透過率を向上させることで、鮮やかな色再現と高いコントラストを実現。HDRを活かした映像撮影が可能となり、明暗差の大きな夕暮れ時や日差しが強いシーンでも、豊かな階調を再現する。

・HD対応の放送用カメラにも装着が可能であるため、すでに導入している放送機材を有効活用しながら、HDRを活かした、より高画質な映像を撮影することができる。

(3) 独自開発の防振機構を搭載し、4K映像制作をサポート

・高性能ジャイロセンサーにより、微小な振動も正確に検出することができる。

・独自開発の「セラミックボールローラー方式」による防振機構を搭載。精度加工を施したセラミックボールを駆動

部に採用することで、防振時の摩擦抵抗を極限まで低減し、風や足場の揺れによる映像のブレをタイムラグなく的確に補正。カメラを水平方向に動かしながら撮影するパンニング操作時に生じやすい揺れ戻し現象を抑制。撮影者の意図通りにフレーミングが可能。

(4) 新開発のドライブユニットにより、高い操作性を実現・新開発のドライブユニットにより、ズーム・フォーカス・アイリスの駆動スピードが向上し、快適な操作性を実現。スムーズなズームが可能となり、素早く動く被写体も的確に捉えることができる。

・ズームやフォーカスの位置情報などのレンズデータを高分解能で出力できる16bitエンコーダーを標準装備。CG映像とライブ映像を合成するバーチャルスタジオなど、さまざまなシステムと連携できる。

(5) 9枚絞り羽根採用による自然なボケ味を実現

・9枚絞り羽根を採用することで、より円形に近い絞り形状を実現。美しい光芒や自然なボケ味を生かした映像表現が可能。

◆ブラックマジックデザイン：ポストハウス、DigitalFilm Tree、DaVinci Resolve 15 Studioへ移行

ポストプロダクション会社、DigitalFilm Tree(以下DFT)が、編集、カラーコレクション、ビジュアルエフェクト、納品までを含むすべてのワークフローを、今月リリースされた最新のDaVinci Resolve 15 Studioに移行したことを発表した。

1999年の創設以来、テクノロジーとシネマアートの限界を押し広げてきたDFTは、最新のテクノロジーを常にいち早く取り入れており、ハイエンドの放送、OTT、劇場映画プロジェクトに最高クラスのフィニッシングを提供するポストハウスとして、業界の第一線に立ち続けている。とりわけ、DFTは、Blackmagic DesignによるDaVinci Systemsの買収後、最初にDaVinci Resolve Studioを使用した会社のうちの1つであり、2009年に「NCIS:LA」極秘潜入捜査班」で同製品を使用している。

DaVinci Resolve 15 Studioへの移行は、慎重に計画されてきた。2018年4月にNABでDaVinci Resolve 15 Studioが発表されてから、何度もパブリックベータ版でテストを重ね、遂に移行実現の運びとなった。「私たちは、クライアントやアーティストに対して、常に最高のツールを提供するよう努めています。」DigitalFilm Treeの創設者/CEOであるラミー・カトリブ(Ramy Katrib)氏は語る。「DaVinci Resolve 15 Studioの完全版が近く発表されると分かっていたので、パブリックベータ版で系統的にテストを行い、DaVinci Resolve 15 Studioをすべてのポストプロ部門に導入しました。」

新しいソフトウェアの一番の変化は、Fusion VFX が追加されたこと
であった。DFT がVFX 部門にこれらの ツールを導入したことは、歓迎
すべきことであり、複雑なことでもあった。「DaVinci Resolve 15
Studio の独自のワークフローを活用し、編集、コンフォーム、カラコ
レ、VFX の専門アーティストたちが同一のプロジェクトで同時に作
業できるようにしたいと思いました。」カトリブ氏は続ける。「VFX と
カラコレの部 門では、いち早くFusion を使い始めました。DaVinci
Resolve Studio に組み込まれているので、他のアプリとのラウンド
トリップは必要ありません! かなり早い段階で、Fusion のパワーとリ
アルタイム・コラボレー ションの効率性を実感しましたね。」

DaVinci Resolve 15 Studio では、ポストプロダクションの完全な
コラボレーションが実現する。そして、移行を早期に実行しようと
いう社内の氣勢を高めたのは、DaVinci Resolve に搭載されたツール
群の存在で あった。「DaVinci Resolve Studio のカラーページのス
ピードとパワーには、もともと満足していま した。」DFT のシニアカ
ラリスト、パトリック・ウッドアード(Patrick Woodard)氏は語る。
「DaVinci Resolve 15 Studio は、グレーディングしている間に他の
アーティストたちとインタラクティブに作業できるの、チームとし
て一層効率的かつクリエイティブな仕事が可能になりました。」

DaVinci Resolve 15 Studio が他のアプリケーションとは異なる点
は、完全なNLE 機能に加え、受賞歴を誇るカラーグレーディングシス
テム、Fusion VFX、Fairlight オーディオ、そしてデリバリーツールを
単一のアプリケーションに搭載していることである。あらゆるレベル
のアーティストが同一のタイムラインで同時に作業できるため、納品
までの効率性とスピードが格段にアップする。「締め切りが厳しく、技
術的/ 創作的 な改正が目まぐるしく要求される今日の状況において、
編集、コンフォーム、カラコレ、VFX を同時に進め ることは道理にか
なっていると云えますね。」カトリブ氏は続ける。「DaVinci Resolve
15 Studio を使用 すれば、クライアントはDFT のオフィスでも離れた
場所でも、ポストプロのあらゆるプロセスを同一タイムラ インで行き
来できるのです。DaVinci Resolve Studio から最終マスターを直接
出力できるので、納品まで の時間が劇的に短縮されました。マスタ
リングのプロセスを通じて、クライアントにカメラRAW フィニッシ
ングの環境を紹介します。各プロジェクトにおいて、技術部門とクリエイ
ティブ部門がコラボできるポ ストプロダクションは、とてもエキサイ
ティングです!」

4年以上前に、DFT はDaVinci Resolve Studio とIT ロジスティク
ス性能にテコ入れを行い、リモートのポ ストプロダクション・サービ
スを提供できるようになった。最初は世界中のクライアントに対し、
DaVinci Resolve Studio のリモート・カラーシステムを提供。クラ
イアントは、LA にあるレンガとシックい壁が 目印のDFT オフィス
にいるかのような感覚で、プロジェクトを確認、承認することができ
る。

「IP ベースの処理やサービスに移行するにつれ、DaVinci Resolve
Studio を使って、ポストプロダクション のあらゆる過程をクライ
アントに提供できるようになりました。クライアントの所在地は問題で
はありません」とカトリブ氏。「今では多くのクライアントが、私たち
が"GeoPot" と呼んでいるリモート・ポ ストサービスを利用していま
す。TBS の『Wrecked』にはフィジーからリモート・デイリーを提供、

ABC の『American Housewife』にはカラーおよびVFX をリモート
で提供、CW の『ハンドレッド』にはタイトル、コンフォーム、カラー、
VFX をリモートで提供しています。」

カトリブ氏は、DaVinci Resolve 15 Studio のコラボレーション機能
やリモート機能を使って、DFT のサー ビスを全世界に拡大できるこ
とにワクワクしているという。「DaVinci Resolve Studio は常に業界
のゲー ムチェンジャーであり、幅広く普及しています。単一のソフト
ウェアで完全な共有ワークフローを実現できることで、ポストプロダ
クションのパラダイムが劇的に変化することでしょう。誰にとっても
良い方向へ。」カトリブ氏は最後こう結んだ。戦の魅力の向上に貢献し
ていく。

◆ブラックマジックデザイン：金馬奨受賞作品、「アリフ、ザ・プリ ン(セ)ス」、URSA Mini 4.6K および DaVinci Resolve Studio を使用

中国、北京 2018 年8月23日 - 金馬奨受賞作品、「アリフ、ザ・プリ
ン(セ)ス」は、URSA Mini 4.6K デジタルフィルムカメラで撮影さ
れ、カラリストのチャン・ゾーイ(張明珠)氏により、DaVinci Resolve
Studio およ びDaVinci Resolve Advanced Panel を使ってグレー
ディングされた。

ワン・ユーリン(王育麟)監督、ワン・パンユン(王盼雲)撮影監督によ
る「アリフ、ザ・プリン(セ)ス」は、女性になりたいという願いと、原
住民族の族長の後継者という立場の間で板挟みになっている25 歳の
美容師、アリフと彼を取り巻く友人たちのストーリー。ウジョンオン・
ジャイファリドゥ(舞炯恩、加以法利得)、チャオ・イーラン(趙逸嵐)、
ウー・ボンホン(吳朋奉)、チェン・ジューション(陳竹昇)らが出演して
いる。同 作は、2017 年の金馬奨で、最優秀助演男優賞を受賞し、最優
秀作品賞にノミネートされた。また、第30 回東京 国際映画祭では、「ア
ジアの未来」に選出された。

プロジェクト全体の予算が25 万US ドルという厳しい条件の中、ワ
ン・ユーリン監督は、低価格でもハイエンド の映像を撮影できるデ
ジタルフィルムカメラを必要としていた。Blackmagic Production
Camera 4K と Blackmagic Cinema Camera を長年に渡って使用
してきたワン監督は、Blackmagic Design カメラの画質を信 頼して
いたので、今回の作品ではURSA Mini 4.6K カメラを使用することを
決めた。

「低価格でパワフルな機能を搭載していることに加え、URSA Mini
4.6K はサイズも完璧でした。肩寄せで撮影 しても重くありません。さ
らに屋内のシーンは、台北市内の古い建物やバーなど、狭い場所で撮影
することが多かったのですが、カメラを簡単に持ち運びできました。
俳優の動きを追ったり、バーの狭いトイレやカウンター などでセッ
トアップも簡単でしたね。」ワン・パンユン撮影監督は語る。

コストを抑えるために、できる限り照明は使わずに、自然光を光源とし
て撮影を進めた。自然光では暗すぎる場 合にだけ、人工照明を使用し
たという。夜のシーンの撮影では、特定のエリアだけを照らした。その
結果、多くのフッテージは非常に暗い仕上がりになった。

カラリストのチャン・ゾーイ氏にとって、この暗い映像は大きな課
題となった。チャン氏はこれまでに、人気映画「Monkey King 3:

Kingdom of Women]、「Devil and Angel]、「閃光少女]、「Black & White 2: The Dawn of Justice]、「Cook Up a Storm]、「End of Summer]などの作品を手がけている。

「ワン監督は、低コストで高品質の作品を作りたいと希望していました。私はDIの分野で長年経験を積んできましたが、今回のような課題には、いつものようにリラックスして臨む訳にはいきません」とチャン氏。URSA Mini 4.6Kで撮影したRAWフットージを実際に初めてDaVinci Resolve Studioで見ると、監督のビジョンが分からなかったとチャン氏は言う。「15ストップのラティチュードで撮影しているのに、ハイライトや暗い部分に埋もれたディテールを確認して、回復することができました。私が一番驚いたのは、室内の窓辺で撮影した逆光のシーンでした。窓辺で撮影した逆光のフットージで、ここまでディテールを維持できるハイエンドのデジタルフィルムカメラは見たことがありませんでした。」

同作のルックについて、チャン氏はこう説明する。「黒い部分を緑がかったルックにしたいと思いませんでした。人物の顔が汚れているように見えてしまいますから。特にこの作品は、暗めのスキントーンで台湾先住民族を描いていますし、多くのシーンは照明が十分ではありませんでした。さらに主人公のアリフはトランスジェンダーで、「美」に携わるプロのスタイリストです。私は、スキントーンとリッチなカラーを慎重にグレーディングすることで、繊細で感傷的という主人公の人物設定をサポートしようと思いました。」

「『アリフ、ザ・プリン(セ)ス』のルックを設定する際、最初に3つのトーンを作成して監督に選択してもらいました。1つ目は、黒い部分には赤茶色が、そしてニュートラルカラーを含むミッドトーンのエリアには淡い青がかっており、人物が背景から浮き出るような感じのルックでした。2つ目のトーンは前述の色をより強調したものです。そして3つ目は、グレーディングを抑えた自然でニュートラルなトーンです。」

ワン監督は、日中の屋内および野外のシーンでは、2つ目のトーンを選択した。この作品は3つのストーリー軸で成っている。すなわち、アリフと彼のおてんばなルームメイトのストーリー、夜な夜なドラッグクインに扮する公務員のストーリー、そしてトランスジェンダーのパブオーナーと彼女が想いを寄せる配管工のストーリーである。チャン氏はシーンやストーリーに応じてさらに調整を施していった。

チャン氏はいくつかの例をあげて説明する。「欲情的なシーンでは、紫を多く取り入れました。また、パブでのシーンでは、DaVinci Resolve StudioのPower Windowを使って特定のエリアで照明の色のサチュレーションを上げることで、イメージを魅惑的な音楽とマッチさせることができました。そして病院のシーンは、グレーがかった暗めの青いルックにしました。夜の屋内のシーンでは、窓や窓周辺のエリアに濃い青を入れ、光源の近くは温かいトーンを強調して空間の奥行きを広げました。」海辺のシーンと駅のシーン、そしてアリフとおてんば娘の息子が出てくるシーンでは、ハイライトの温かなトーンを強調したという。

「アリフが性転換手術を受けた後、継承の儀式のために部族の元へ戻るシーンでは、黒いエリアに赤茶色のトーンは使わず、代わりに青を加えることで赤い伝統衣装を際立たせました。衣装の赤を強調しつつ、唇の色は変えられなかったため、衣装や髪飾りの他の色を分離させて強調しました。DaVinci Resolve StudioのPower Windowとトラック

ング機能は非常に便利で性格なので、時間を大幅に削減できました。」ワン・パンユン撮影監督は、同作のDIについてこのように語る。「ゾーイは彼女がこれまでに培った経験と技術を基に、色やディテールが観客にとってパーフェクトに表示されるよう各フレームを作成しました。特にアリフが身につけている衣装や髪飾り、そして継承の儀式のシーンでは、鮮やかな色とそれにマッチする明度/暗度が精密に計算されています。ゾーイは大作のみならず、超低予算の作品でもグレーディングを完璧にこなしてくれます!」ワン撮影監督は最後にこう結んだ。

◆ブラックマジックデザイン：チューリッヒ保険のエクストリームスポーツのCM制作、DaVinci Resolve 15 StudioおよびURSA Mini Proを使用

URSA Mini ProおよびDaVinci Resolve 15 Studioが、チューリッヒ保険のスポーツをテーマとしたキャンペーンの制作に使用されたと発表した。この2作のCMの監督、撮影、ポストプロダクションは、ミュンヘンのThe Directors Duoが担当した。

同2作のキャッチフレーズは共に「高いパフォーマンス」だが、互いに全く異なっている。夏のCMは、女性が自転車で森の中をジャンプしたり、大自然の中を駆けまわる様子を捉えたものだが、冬のCM「Olympia」では、アルペンスノーボーダーが命や手足を失う危険もいとわず、アルプスの急傾斜を滑降したり、ギャップを豪快にジャンプする様子を映し出している。しかし、両作ともにシネマライクな品質で壮大なスケールで撮影されており、The Directors Duoのベンヤミン・クラツィン(Benjamin Kratzin)とクリストファー・シュリーフ(Christopher Schlierf)の両氏のトレードマーク的なスタイルが反映されている。

クラツィンとシュリーフの両氏は、チューリッヒ保険の代理店であるButterと制作会社Fireappleの依頼を受け、CMの撮影および監督をすべて行った。冬の作品の撮影には、ヘリコプターとドローンを使用したワイドショットに加え、至近距離のショットが含まれていたため、両氏はスノーボーダーの動きを間近で追い、時には共にジャンプし、すべてのカメラで可能な限り接近した状態を維持するようにした。

「撮影にはURSA Mini Proを使用し、求めていたルックを得るために、アナモルフィックレンズを選びました。Easyrigに取り付けたDJI Ronin 2にカメラをマウントして、そのジンバルを身体に固定した状態で、スロープをスキーで滑りながら撮影しました。URSA Mini Proの優れた点は拡張性が非常に高い点ですね。」とシュリーフ氏は語る。「チューリッヒ保険は冬のCMの出来を大変気に入り、夏のマウンテンバイクをテーマとした続編の撮影も依頼されました。こちらは、冬バージョンに比べて小さな規模のプロジェクトでした。」と同氏。

両氏は、映像とオーディオのポストプロダクションにDaVinci Resolve 15 Studioを使用した。「作業の内容に合わせて、エディットページ、カラーページ、デリバリーページに瞬時に切り替えられ、コンフォームやラウンドトリップを実行する必要もありませんでした。1つのソフトウェアに必要なものすべてが詰まっているんです。」

「DaVinci Resolve 15では、クリエイティビティが未だかつてないレベルで発揮できると思います。エディットページのタイムラインのス

タック表示やタブ表示などの機能は、あらゆる編集作業を行うプラットフォームとして極めて使いやすく、カラー、VFX、オーディオの面でもパワフルなツールが搭載されていますね。」とクラツイン氏は語る。

同氏は続ける。「インターフェース全体が、とてもモダンなデザインです。エディットページのタイムラインはインタラクティブなので、編集作業を流れるように行えます。タイムラインでのマウスの配置によって、トリムツールが変わる点などのシンプルな機能が大きな違いを生んでいると思います。」

カラーグレーディングの完了後、クラツイン氏はサウンドデザインのライブラリ全体をDaVinci Resolveに読み込み、Fairlightページでオーディオのミキシングなどの作業を行った。

「その後、レベルをノーマライズし、書き出しはテレビ用の最終段階でのみ行い、それをミュンヘンのOrange Sound Studioに委託し、放送規定を満たすミックスを作成しました。FairlightがResolveに統合されたのは比較的最近のことですが、クリエイティビティ溢れるツールにFairlightの優れた機能が加わったことで、さらにソフトウェアとして磨きがかかったと思います」と、クラツイン氏は締めくくった。

◆朋栄：12G-SDI入出力に標準対応したビデオスイッチャーHVS-1200を発売

株式会社朋栄は、12G-SDI入出力に標準対応したビデオスイッチャーHVS-1200を発売した。HVS-1200は、2018年9月14日(金)から5日間、オランダ・RAIアムステルダムで開催される欧州放送機器展「IBC 2018」にて展示される。(ホール2 ブースNo.A51)



HVS-1200は、4K対応スイッチャーでありながら可搬性に優れたコンパクトな3Uの筐体を採用し、中継車やイベントでの活用に最適なビデオスイッチャー。HVS-100/110やHVS-490の機能・操作性を継承しながら、全入出力を12G-SDIに標準対応することで、4K UHD時に10入力10出力を実現(*2)しています。全入力にフレームシンクロナイザーを搭載しており、入力された同期/非同期ビデオ信号のスイッチングに対応。12G-SDIとquad link 3G-SDI (2SI)の混入入力も可能。また、モード切り替えにより、40入力10出力のHDビデオスイッチャーとしても活用できる。

■幅広い運用に対応できる機能を搭載

HVS-1200は、4K時1M/Eスイッチャー、HD時2M/Eスイッチャーとして提供され、さまざまな現場で活用できる機能を搭載している。AUXトランジション機能を進化させたMELiteTMを活用することで、4Kで2M/E相当、HDでは6M/E相当の運用が可能。キーヤーは4K時に2つ、HD時はM/Eごとに4つを利用可能。M/EまたはAUXバスにフリーアサインすることが可能なキーヤーFLEXaKEYTMと併用して、4K時に3キーヤー合成、HD時にはM/Eごとに8キーヤー合成が可能になる。トランジションは、CUT、MIXのほかWIPEパターンを100種類搭載。回転やポジション移動、リサイズが可能な2.5D DVEも標準搭載している。2.5D DVEは、4K時2系統、HD時16系統が

利用可能。モザイクやデフォーカスなどのエフェクト効果も搭載している。入力ソースやプログラム出力を確認できるHD解像度のマルチビューワーも2系統搭載。それぞれ最大16分割表示が可能。

■3種類のコントロールパネルとWeb GUIを活用可能

コントロールパネルは最大3台まで接続でき、HVS-490用のメインコントロールパネルを利用可能。2M/EタイプのHVS-492WOU、小型2M/EタイプのHVS-492OU、ラックサイズ2M/EタイプのHVS-492ROUを活用できる。ブラウザ上でWeb GUIを使用する簡易オペレーションにも対応しており、スマートフォンやタブレットからコントロールすることも可能。

型名: HVS-1200

発売時期: 発売中(2018年7月より)

価格: 560万円(税別)～

◆伊藤忠ケーブルシステム：Haivision社製イベントライブ配信用4Kエンコーダ「KB MAX」を2018年8月1日より販売開始

Haivision社が新発売したKB MAXは収容効率が非常に高い小型の筐体に高性能GPUと3G-SDI入力4ポート(うち1ポートは12G-SDI対応)を実装しながら、価格は従来の一般的な製品と比較して40～50%で設定されており、事業者様の4Kライブ配信の具体化に貢献するモデル。4Kカメラが持ち込まれるスポーツイベントや祭りなどの催事、また文化的催しなどのシーンにおいて、ネットワークの準備さえあれば現地からYouTubeなどの配信プラットフォームへ4K映像を送信することが可能。購入を検討をする事業者に対しイベント単位でのレンタルプランも用意している。



■製品の主な特長

- H.264/HEVC エンコーディング
- マルチビットレート出力対応
- 独自の誤り訂正プロトコルSRTをサポート
- 大手配信プラットフォームに対応
- クローズドキャプションをサポート
- 寸法 44mm(H) x 216mm(W) x 267mm(D)、重量約2.3kgの持ち運び可能なサイズ
- 360VRライブ配信対応(オプション)

◆KPI：MISONICS mini10 / mini10-a 販売開始

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージングは新たにMISONICS社製品の取り扱いを開始、小型LEDライト「mini10」「mini10-a」の販売を2018年8月22日より開始した。

■製品特徴

オンカメラ使用に最適な軽くてスリムな小型LEDライトです。バッテリー式のmini10とバッテリー/外部入力兼用のmini10-aの2タイプをラインナップ。最大出力は10W、60cmで1008 lux。色温度は2700～7200Kと幅広い調整が可能。演色性は



95以上。照射角は110°以上。ハウジングにはAL60系列のアノダイジングアルミニウム合金を採用し、220gと軽量化に仕上がっているほか、部品密度を高く設計し、わずか14mmと薄くなっている。バッテリーはサムスン製の3,300mAの交換可能な大容量バッテリーを内蔵。USB端子経由で充電できる。またmini10-aはバッテリーの他、DC7-24Vの外部電源入力にも対応。

■mini10・mini10-aの主な仕様

バッテリー：DC4.35V、3,300mA、リチウムイオンバッテリー（三星EB-BJ710）付き

入力電源・充電：mini10：MicroUSB、mini10-a：7-24V外部入力、MicroUSB

最大出力：10W（最大の明るさで80分使用可能）

色温度2700-7200K（±150K）

照度：1008 lux(60cm)、276 lux（1m）、72 lux(2m)

Delta UV：±0.004

CRI：95以上（平均97）

照射角：110°

調光範囲：0-100%

調節方式：ダイヤル方式

フリッカー：フリッカーフリー

角度調節：ボールヘッド、ディフューザー付き

ハウジング材質：AL60系列、アルミニウム合金（アノダイジング処理）

冷却方式：クーリングファンなし／無騒音

製品重量：223g

製品サイズ：164(W)x80(H)x14(D)mm

バンドア：ディフューザー含め、ポリカーボネート

◆KPI：GODOX アクセサリー 14 種販売開始

GODOXのライティングアクセサリー14種を2018年8月22日より発売開始した。

■製品特徴

・マルチクリップQタイプ：PB960をライトスタンドに簡単に装着できるアクセサリー。インサートホールにPB960のベルトクリップを差し込むだけで固定できる。また1/4、3/8ネジ穴があるので、アーム等を取り付けて各種アクセサリーを装着することが可能。

・パラボリックソフトボックスP90L、P120L：光を集中的に集め、彩度の高い再現が可能なソフトボックス。光は直線的で明るく、非常に均一。柔らかいライトを創る。簡単に分解でき、非常にコンパクトに収納が可能。

・ワイドアングルリフレクターRFT-4：AD600B、AD600プロ用で直径30.5cmでワイドな照射角120度を実現するリフレクター。マウントはポーエンス仕様。

・5in1リフレクターディスク(60cm、80cm、110cm)：取り外し可能なリバーシブルジップ式リフレクターディスク。シルバー、ブラック、ゴールド、ホワイト、ディフューザーの5種類。サイズは、直径60cm、80cm、110cmの3種類。

・エクステンションフラッシュヘッドEC-200：AD200のフラッシュヘッド部と本体(バッテリー部)をセパレートにできる延長ユニット。

ヘッド部を離すことで、ライトスタンドやブームアーム等に安定して取り付けでき、手持ちライティングも容易に行える。フラッシュヘッド部底部はコールドシュー付きでカメラに取り付けでき、1/4"ネジでスタンドや三脚に取り付けることも可能。

・デュアルパワーフラッシュブラケットAD-B2：AD200を2台用意して400W相当の大光量フラッシュとして使用できるブラケット。フロントアクセサリマウントはポーエンスタイプで、各種アクセサリを装着可能。

・ライトスタンドキャリングバッグCB-03：GODOXライトスタンドS/M/L用の収納バッグ。

・AD600 Pro 用補充パーツ：AD600 Proの標準で付属しているフラッシュチューブ、リフレクターAD-R9、リチウムバッテリーWB26、バッテリーチャージャーWC26の単体発売。予備用として購入可能。

◆KPI：HOODMAN 製品 一部 価格改定

販売を強化するためHOODMANの一部製品をメーカーの協力の下、値下げすることとなった。

改定日：2018年9月5日

改訂製品と新価格(カッコ内旧価格)

・HDLP3 ドローン離発着パッドS 9,630円(18,000円)

・HDLP ドローン離発着パッドM 15,880円(29,000円)

・HDLP8 ドローン離発着パッドL 52,880円(98,000円)

・HAV1KIT iPad mini用フードキット 10,880円(18,800円)

・HAV2KIT iPad Air2用フードキット 12,880円(22,000円)

・HAV6KIT iPhone6/7/8用フードキット 8,380円(9,900円)

・HAV6PKIT iPhone6P/7P/8P用フードキット

8,380円(9,900円)

◆ヒビノ：JBL PROFESSIONAL テレビ用スピーカー（サウンドバー）“PSB-1”販売開始

“PSB-1”はテレビ視聴の満足度を格段に高める設備向けテレビ用スピーカー。

【主な特徴】

・JBL製スピーカーを搭載し、ニュースはよりクリアに、ドラマや映画はより臨場感のあるサウンドで再生

・音量の上限を4段階に設定できる機能で、使用者が必要以上に音量を上げてしまうリスクを低減

・付属の固定金具に取り付けられた制振ゴムで、スピーカーの振動が壁や台に伝わることを防ぎ、音漏れを防止

・1つのリモコンに操作をまとめて直感的に扱える、赤外線学習機能を搭載

・約60分間音声入力がない場合に、音量を上限の30%にリセットする機能を装備

・自動スタンバイ機能で使用しないときの消費電力を抑制

・スピーカーを保護し、水拭きができるスチール製のグリル

・部屋のイメージを崩さないスリムなボディーで壁掛けテレビの下のわずかなスペースに設置可能

発売開始は2018年8月22日。

◆ヒビノ：JBL PROFESSIONAL "705P Powered" "708P Powered" パワード・スタジオモニター販売開始

JBL PROFESSIONAL のパワード・スタジオモニター "705P Powered" "708P Powered" を 2018 年 8 月 24 日より発売する。705P Powered、708P Powered は、比類ない再現力と力強いサウンドを獲得しながらも、極めてコンパクトなボディを



を実現している。特に 705P Powered は、幅 152mm、高さ 269mm、奥行き 273mm と小さく、設置スペースの制約を受けずに好みの位置に配置できるうえ、スクリーン等を見ながら作業する際にも視線との干渉を最小限に抑えることが可能。他のスタジオに持ち込む際の労力も大幅に軽減できる。また、ディレイや EQ などの信号処理機能を内蔵しているため、外部機器の設置スペースも抑えられる。比類ない再現力を獲得し、高域には、1 インチ環状ポリマー製ダイヤフラムを搭載したコンプレッション・ドライバーを採用した。ポリマー製のダイヤフラムは、一般的なチタンやアルミ製のダイヤフラムが持つ金属特有の響きがないうえ、軽量で入力信号に俊敏に反応するため、繊細な響きも極めて忠実に再生できる。制動性能にも優れているため分割振動が起きにくく、36kHz 以上でも滑らかな特性を達成した。さらに、環状ダイヤフラムは音への変換効率が高く、アンプの負荷が大幅に低減。リミッターが不要なため、高出力時もクリアで正確な音場を再現する。また、高域ドライバーが発した音は、最上位スタジオモニター「M2」のために開発したイメージコントロールウェーブガイドが先導し、クロスオーバー周波数まで極めて均一な特性を獲得している。音場の再現に優れ、スピーカーの外側に伸びるほどの広いステレオ音場を再生。中央の音像はこれまでになく明確になり、音場の奥行きや音像の大きさを的確に把握できる。細部の描写能力も高まり、高密度のミックスの中でも音源の微妙な変化や音場の空気感まで伝える。リスニングポイントも広がり、スピーカーの軸外でも音質やバランスを正確に決定できる。コンパクトなボディからは想像できない、力強いサウンドを出力する。低域ドライバーには、2 つのボイスコイルで駆動する独自のディファレンシャルドライブ方式を採用し、高出力と超低歪率を両立した。パワーコンプレッションが少ないため、大音圧が連続しても音質の変化は最小限。バスレフポートは、開口の両側に丸みを持たせた独自のスリップストリーム設計で、出力効率を上げながら乱流によるノイズを低減。量感のある低域を鮮明に描き出す。さらに、ドライバーの性能を最大限に引き出すため、クラス D のパワーアンプを新たに開発した。高域と低域を各 250W でパイアンプ駆動し、規模の大きいスタジオにも余裕で対応する。持ち運びや設置に便利な機能を多数備えています。各ドライバーはグリルで保護されているため、移動時の衝撃による破損を防止できます。708P Powered は側面にハンドルを装備しました。また、前面にバスレフポートを搭載しているため背面を壁に近接して設置可能。金具取付ポイントも装備し、壁や天井等への設置にも対応する。さらに、32bit/192kHz の高性能 DSP を内蔵しており、状況に応じて EQ やディレイを実行できる。EQ には、設置環境などによる影響を補正する 8 バンドの

ROOM EQ と、最終的な試聴環境やユーザーの好みに応じて使用するハイ/ローパスフィルターおよび 4 バンドの USER EQ を用意している。ディレイには、スピーカー間のタイム・アラインメントを補正する最大 18ms の SPEAKER ディレイと、映像とのズレを補正する最大 150ms の FRAME ディレイを用意した。各項目の設定状態はプリセットとして本体に 6 個まで保存可能なため、セットアップが素早く簡単に行える。705P Powered、708P Powered は、アナログ入力に加えて AES/EBU デジタル入力を装備。アナログ入力の感度は +4dBu と -10dBV から選択可能。デジタル入力はサンプリングレートコンバーターを搭載しており 44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz の信号に対応する。デジタル・スルーアウト端子も搭載した。前面には電源の ON/OFF 状態を示す LED に加えて、システムの不具合や信号処理機能の動作状況を示す LED も装備している。背面には液晶ディスプレイと操作しやすいホイール式のコントローラーなどを配置し、各種設定が迅速に行える。

◆ティアック：TASCAM 新ブランドガイドラインを策定 新しいキャッチフレーズとブランドビデオを公開

ティアック株式会社は、音楽制作・業務用オーディオ機器のブランド、TASCAM(タスカム)の新しいキャッチフレーズとブランドビデオを公開する。それにあわせて WEB サイトもリニューアルした。

TASCAM は、1971 年に TEAC のプロフェッショナル音響機器の販売会社 TEAC AUDIO SYSTEM COMPANY OF AMERICA としてスタートした。オープンリール MTR や、カセット MTR、DTRS 規格、デジタルミキサーなど、時代の先端を行く技術で、世の中にイノベーションを起こしてきた。現在ではテレビ/ラジオ放送局の録音と送出を支えるシステムから、レコーディングスタジオの録音システム、コンサートホールや会議室、学校、商業施設、劇場などを支える音響設備、インターネット放送やミュージシャンの音楽制作を支えるシステム等、世の中の音に関わる産業を支えている。

映像エンターテインメントでは 4K、8K、VR、AR など目覚ましい変化が起こり、音楽の作り方、楽しみ方も数年間で劇的な変化が続き、人々が生活していく中で音に求められる価値もより高まっている。TASCAM は、これまで以上に音にまつわる産業や人々へ、音のプロフェッショナルとしてより良いソリューションを提供していくために、これから TASCAM が目指すべきビジョン、価値を見直し、新たなブランドガイドラインを策定いたしました。それを体現するべく、新たなキャッチフレーズとこれからの TASCAM を象徴するブランドビデオを公開した。

TASCAM の新キャッチフレーズ『Sound. Thinking.』には、録音・再生、音声、音楽など、あらゆる社会の「音」について真摯に向き合い、こだわり、考えるブランドであるという意味合いが込められている。

*「Sound」は英語で「音」の他に、「しっかりした、堅実な」という意味もあり、上記に加え、「堅実に」「地に足をつけて」取組み、考えるという意味合いも加わる。

【代表取締役社長 英裕治からのコメント】

「TASCAM は 1971 年にブランドが誕生して以来、世界中のと再生に関わる人々を支え、音に関する文化に大きく貢献して参りました。録音と再生のプロフェッショナルであるという自負は、TASCAM を

成長させる糧であり、責任であると考えています。この度、新しいキャッチフレーズ『Sound. Thinking.』を策定するに当たり、改めてブランドのコアとなる価値を見直しました。TASCAM はこれからも、世界中のあらゆるシーンで音を扱う人の録音・再生へのニーズに対して高い品質、耐久性を提供することにより、彼らのパフォーマンスを最大限に発揮させるために、TASCAM だからこそ実現できる、音響に関わるトータルソリューションを提供して参ります。これからのTASCAM にどうぞご期待ください。」

【TASCAM WEB サイト】

<https://tascam.jp/jp>

【TASCAM ブランドビデオ掲載ページ】

<https://tascam.jp/jp/contents/about>

◆ティアック：人気アニメ『魔神英雄伝ワタル』の30周年を記念した『ワタルヘッドホン』をティアックストアにて限定販売開始

ティアック株式会社は、beyerdynamic 社製のヘッドホンを中心としたコラボヘッドホン『ワタルヘッドホン』を魔神英雄伝ワタル 30 周年を記念し、ティアックストアにて限定販売する。本製品に使用するイラストは牧内ももこ(スタジオライブ)による新規描きおろし。絵柄は『魔神英雄伝ワタル』、『魔神英雄伝ワタル 2』、『超魔神英雄伝ワタル』の3バージョンをご用意した。ヘッドホンは、beyerdynamic 社製の高音質ヘッドホン『CUSTOM ONE PRO PLUS』を採用。音質重視の厳選された部品のみを使用して、ドイツ自社工場で職人達が1つ1つ丁寧に作り上げているハンドメイド品。優れた音の再現性はもちろん、イヤープレートは付属する好みの絵柄に変更が可能でワタルファンの音楽ライフをより豊かにする。



【主な特長】

- スタジオライブの牧内ももこさんによる完全描き下ろし含む、イヤープレートを6種類同梱
- ドイツ製ハンドメイドヘッドホン『CUSTOM ONE PRO PLUS』をベースモデルに採用
- 密閉型から開放型へ4段階に変更可能なバリエابل・バスレフシステムを搭載
- 高効率なプロフェッショナル16Ωベロシティドライバー搭載
- 周囲のノイズを遮断し、音漏れを防ぐバリエابل・ノイズリダクションシステム搭載
- 着脱式片出し1.5mケーブルおよび1.2mマイク内蔵リモコンケーブルを同梱
- オリジナルデザインの化粧箱

◆ティアック：CD-400U用イーサネットコントロールカードIF-E100発売

『IF-E100』は、CD、SD、USB、Bluetooth®の再生に対応し、AM/FMチューナーも搭載したマルチプレーヤー『CD-400U』用のイーサネットコントロールカード。『IF-E100』を『CD-400U』に装着するこ

とで、イーサネット経由での外部コントロールに対応し、ネットワークで構築されるシステムへの導入が可能になる。

【主な特長機能】

- イーサネット接続により、Telnetで『CD-400U』を外部からコントロール可能
- 100BASE-TX対応
- ネットワーク設定と確認は、『CD-400U』本体メニューまたは、Windows/Mac対応ウェブブラウザアプリケーション『CD-400U Network Settings』から可能
- RJ-45端子

『CD-400U』に『IF-E100』を装着することで、再生、トラックスキップ、早戻し/早送りといった基本操作や、マルチプレーヤーならではの再生メディア切り替え操作がTelnetでコントロール可能になる。加えて、再生モード(連続再生/シングル再生/ランダム再生)、リピート、インクリメンタルプレイといった再生時の詳細設定もコントロール可能。

◆ゼンハイザー：J森園政崇選手、仲田歩夢選手“ゼンハイザー応援アスリート”就任

ゼンハイザージャパン株式会社は、男子卓球 森園政崇選手、女子サッカー 仲田歩夢選手、が“ゼンハイザー応援アスリート”に就任した。世界で活躍する森園選手、仲田選手がさらなる活躍をできるよう、ゼンハイザージャパン株式会社も両選手を応援していく。森園選手、仲田選手とも利用しているのは、スマートフォン対応のスポーツ向けワイヤレスイヤホンSPORT n-Ear Wireless。汗や水に強く、アウトドアやスポーツユースに最適なモデル。

◆ヒビノ：AKG製プロフェッショナルヘッドホンの輸入販売業務を開始

ヒビノ株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長：日比野晃久)は、この度AKG製プロフェッショナルヘッドホンについて2018年9月3日より日本国内における輸入販売業務を開始することになった。

AKGは、1947年にオーストリアのウィーンで設立されました。広大な再現領域と、細部と全体性の精妙なバランスを備えた製品は、世界中のプロフェッショナルに選ばれている。

ヒビノ株式会社はAKG製プロフェッショナルヘッドホンの輸入販売業務開始にともない、日本国内における販売、修理、サポートの体制を整え、当該製品を快適に使用いただけるよう努力してまいります。詳細に関しては、ヒビノ株式会社ヒビノプロオーディオセールスDiv.までお問い合わせください。

■取扱開始製品

AKG製プロフェッショナルヘッドホン

■受注開始日

2018年9月3日(月)

※出荷は9月4日(火)以降になります。

■問い合わせ先

問い合わせ窓口 TEL：03-5783-3110 FAX：03-5783-3111

◆ 8K映像を2SI分割※1伝送でパブリックビューイングを実施 ～大迫力の「そうかえん」を超高精細画像で～

アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）は、スカパーJSAT株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長：高田 真治、以下スカパー JSAT）、株式会社朋栄（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：清原 克明、以下朋栄）、ソニービジネスソリューション株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：宮島 和雄、以下ソニービジネスソリューション）と4社共同で、8K映像「そうかえん」※2を2SI分割し、現行の4Kエンコーダー/デコーダーを用いてパブリックビューイングを実施した。

今回のパブリックビューイングは、8K映像の2SI分割伝送実証実験の成功（2018年5月）※3を受けて実施した。これにより、現行の4Kエンコーダー/デコーダーでも8K映像送受信が可能であるということが実証され、各種イベントの8K中継や8Kパブリックビューイングなどで利用が進むことが期待されている。今回のパブリックビューイングの概要は以下のとおり。

実施日：2018年8月26日（日）10：00～12：30

中継映像：平成30年度富士総合火力演習

撮影・送信場所：陸上自衛隊 東富士演習場

受信・上映場所：アストロデザイン（株）雪谷本社

使用機材：

8Kカメラ

アストロデザイン：AH-4801-G

シャープ：8C-B60A

ソニー：F65RS+BPU-8000（8K運用）

4Kエンコーダー/デコーダー 富士通：IP-HE950

8Kコンバータ（2SI変換） アストロデザイン：SC-8219

12G-SDI対応プロセッサ 朋栄：FA-9600

8Kレコーダー アストロデザイン：HR-7518

8K映像確認用ディスプレイ シャープ：LC-70X500

8Kプロジェクター

アストロデザイン：INSIGHT LASER 8K Imaging by ASTRO※4

・12G-SDI光伝送機器協力：株式会社日本ビデオシステム

・ハイレゾ音声収録協力：株式会社インターネットイニシアティブ

使用衛星：JCSAT-3A

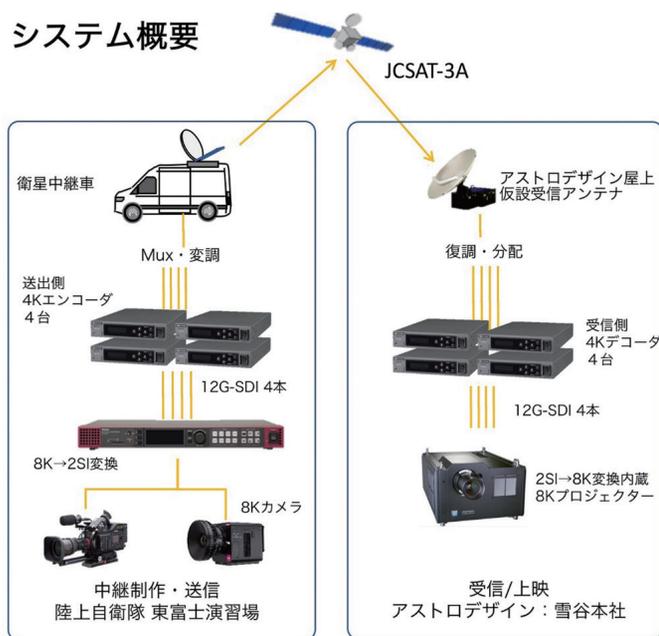
伝送レート：150Mbps 64APSK

なお、同日、スカパー！プレミアム（ch.596）で4K生中継、BSスカパー！およびスカパー！オンデマンドでのHD生中継を同時に行った。

放送は4Kカメラ4台+8Kカメラ4台の計8台で制作を行い、8KPVは8Kカメラ4台で制作し中継を実施した。

今後はより効率的な8Kの中継制作・PV実施やドームなどへの応用を目指して検討を進めている。

システム概要



※1 2SI分割：データ量が膨大な8K信号を送信する際は、データを4分割して伝送路の負荷を軽減する方法が用いられ、(1) 画像を上下左右の4つに分割して伝送する方法（SQD, Square Division）と、(2) 2画素単位で細かく区切ってまとめる方法（2SI分割, 2 Sample Interleave）の2つの方法がある。

※2 そうかえん：正式名称「富士総合火力演習」。陸上自衛隊が行う演習の一つ。戦車やヘリコプター、様々な火砲などによる実弾射撃を見る事ができる人気の一般公開イベント。
(陸上自衛隊ホームページ http://www.mod.go.jp/gsd/f/event/fire_power/ より)

※3 2018年5月11日付けスカパー JSAT プレスリリース：『8K映像を2SI分割 4Kエンコーダー/デコーダーでの衛星通信送受信に成功！～パブリックビューイングを8K画質で～』 https://www.sptvjsat.com/load_pdf.php?pTb=t_news_&pRi=1179&pJe=1

※4 本製品は、アストロデザイン、台湾 Delta Electronics 社及び同社グループ傘下の英 Digital Projection 社の3社共同プロジェクトにより開発した。

【本件に関する報道関係からの問い合わせ先】

スカパー JSAT 株式会社 広報・IR部

TEL：03-5571-7600 / FAX：03-5571-1760

E-mail: pr@sptvjsat.com

【使用機材についての問い合わせ先】

アストロデザイン株式会社 企画部

TEL：03-5734-6100 / FAX：03-5734-6101

E-mail: astro-info@astrodesign.co.jp

株式会社 朋栄 企画室

TEL：03-3466-3528 / FAX：03-3466-4451

E-mail: ad@for-a.co.jp

ソニービジネスソリューション株式会社 企画管理部 経営企画課

TEL：050-3809-1231 / FAX：050-3809-1248

E-mail: sb-sc-corporate-pr@jp.sony.com

MPTe 勉強会 特別企画 NAB 会長・副会長来日記念講演 & セミナー ～入場無料～

NAB 会長ゴードン・H・スミス氏と副会長スーザン・キーノム氏の来日が決定し、講演が決定した。10月3日は、ゴードン・H・スミスNAB 会長（早稲田大学大隈講堂にて）10月4日は、スーザン・キーノムNAB 副会長（ソニー(株)本社にて）。ネットワーク時代を迎えた米国内外の放送事情について、最新情報を公演する。

【1】スーザン・キーノムNAB 副会長セミナー

日時：**10月4日（木）** 15:00～17:00

場所：ソニー(株)本社 C・D 会議室 東京都港区港南1-7-1

テーマ「全米並びにヨーロッパ放送事情」(仮題)

主催 一般社団法人 日本映画テレビ技術協会

協力 「稲門映像人・文化人ネットワーク」設立事務所

後援 株式会社 映像新聞社・NAB 日本代表事務所 / 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会
/ 公益社団法人 映像文化製作者連盟 / 特定非営利活動法人 映像産業振興機構

協賛 一般社団法人 映像情報メディア学会

申し込み：<http://www.mpte.jp/outline/bukai/mpte/mpte-35.html>

【2】ゴードン・H・スミス NAB 会長特別講演

日時：**10月3日（水）** 16:00～17:30

場所：早稲田大学大隈講堂 東京都新宿区戸塚町 1-104

テーマ「ネットワーク時代の放送のあり方」(仮題)

主催 株式会社 映像新聞社・NAB 日本代表事務所

共催 「稲門映像人・文化人ネットワーク」設立事務所 / 一般社団法人 日本映画テレビ技術協会

後援 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 / 一般社団法人 外国映画輸入配給協会
公益社団法人 映像文化製作者連盟 / 特定非営利活動法人 映像産業振興機構

協賛 一般社団法人 映像情報メディア学会

申し込み：稲門映像人・文化人ネットワークホームページ <https://wvcnet.jp/>